

未来マトリクス

学生と企業を繋ぐ未来のモノづくりネットワーク。中部エリアの多様な学問を学ぶ大学生・院生たちとモノづくり企業を中心に、イノベーションを起こすモノづくりに取り組んでいます。名古屋大学工学部 宇治原徹教授（右写真）を発起人に2015年設立。



2019年度活動チーム

① <名称>AKARI：論文を要約し、図式化するソフトウェア

（発表者：名古屋大学情報学部1年鶴見康太）

（メンバー：名古屋大学経済学部4年1名、名古屋大学情報学部1年3名）

・着想のきっかけ

多くの論文を読もうとしたが、そのほとんどは英語で、かつ長いものでした。結局多すぎて読む気がなくなってしまうという経験から、もっと論文を短くまとめ、わかりやすく図式化するソフトウェアを作っておこうと考えた。

② <名称>お天気てんとう虫：自分の街の天気予報を色でお知らせするキット

（発表者：名古屋大学経済学部4年武内美奈、名古屋大学情報学部1年清水貴広）

（メンバー：名古屋大学経済学部4年1名、名古屋大学情報学部1年2名）

・着想のきっかけ

小学生低学年は、テレビや新聞、ネットで天気予報を調べられない。自分の街の天気がライトの色によって変わること自分で天気が判断できるようになる。また、簡単なプログラミングを自分自身でできるようにすることで、プログラミング教育効果も期待できる。

③ <名称>リトマス：海外旅行で水の安全性が判別できるキット

（発表者：名古屋大学経済学部4年天野雄一郎・愛知県立芸術大学2年益田玲）

（メンバー：名古屋大学経済学部4年1名、金城学院大学国際情報学部3年、愛知県立芸術大学3年、名古屋大学情報学部1年1名）

・着想のきっかけ

海外旅行に行くと飲料水が安全か分からず、腹痛が心配で旅行中に安心できない。そこで、塩素の有無（消毒をしているか？）や硬度（軟水・硬水）が簡単に判別でき、旅行にも持ち運びしやすいキットを考えました。旅が楽しくなるようデザインにもこだわっている。

④ <名称>SeeSaw（シーソー）：迷子になった子どもが保護者と会えるシステム

（発表者：名古屋大学経済学部3年船戸雄太郎）

（メンバー：名古屋大学経済学部4年1名、名古屋大学経済学部3年2名、名古屋大学情報学部1年3名）

・着想のきっかけ

広い場所で迷子になる子どもがいる。親が子どもを探すことが一般的だが⇒迷子の子どもが親を探す仕組みを考えたいと思った。ほかのサービスと区別するために「子どもが親を探したくなる」工夫をし、子どもが持ちたくなるデザインを探求している。

⑤ <名称>応援グッズ：世界中と繋がりながら応援できるグッズ

(発表者：金城学院大学国際情報学部 3年小林玲衣奈)

(メンバー：名古屋大学経済学部 4年 1名、名古屋大学経済学部 3年 1名、金城学院大学国際情報学部 3年 1名、愛知県立芸術大学 2年 1名、名古屋大学情報学部 1年 1名)

・着想のきっかけ

オリンピックのチケットが高く、会場には行けそうにないが盛り上がりたい。自宅で一人でも、会社でも、応援がもっと楽しくなるグッズを開発したい。特に心身の反応（音や心拍数など）で応援が盛り上がり、さらに他者につながるグッズを模索している。

⑥ <名称>the Face：自分とそっくりな選手を発見できるシステム

(発表者：名古屋大学経済学部 4年染木昌夫・名古屋工業大学 1年永田浩矢)

(メンバー：名古屋大学経済学部 4年 1名、名古屋工業大学 1年 1名、金城学院大学国際情報学部 3年 1名、愛知県立芸術大学 2年 1名、名古屋大学情報学部 1年 1名)

・着想のきっかけ

パラリンピックがもっと盛り上がったらいのに！自分と似た選手には共感して応援したくなるのでは？という点から、顔認証システムを使って、自分と似た選手をリコメンドするプログラミングを考案。パネル式にして街中で気軽に参加できる仕組みを検討中。

*その他、アイデアが続々と生まれています！当日をお楽しみに！

